ショウちゃんとめぐる

ぶらり昭和区MAP
～八事・興正寺～

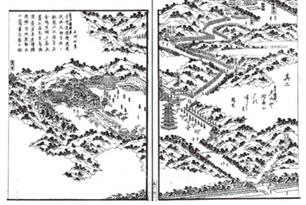
名古屋市昭和区役所

八事・興正寺エリアって？
～そのあらまし～

地下鉄いりなか駅、八事駅の南西部に広がる丘陵地が八事学区です。もともとは山林の中に田や畑が散在する農村地帯でしたが、名古屋市に合併後、大正14年(1925)に始まった八事区画整理をきっかけに発展が始まります。区画整理といっても、丘陵の地形を生かした開発で、山林を残しつつ曲線の道や坂などが多くみられます。また、昭和7年(1932)に南山町に南山学園が創設されて以来、文教地区としても発展してきました。国道153号やグリーンロード沿いは学生や買い物客など、多くの人々で賑わっています。

八事駅の北西部には、八事山興正寺があります。「尾張高野」と呼ばれ、多くの信者が訪れています。境内も広く、五重塔・大日堂をはじめとした堂宇が立ち並ぶとともに、豊かな自然も残されています。

この地区は、貴重な自然が残る丘陵地に閑静な住宅地が広がるとともに、由緒ある寺社や教育施設・商業施設が点在しています。地図を片手に、ゆっくりと街を歩いてみませんか。



八事興正寺『尾張名所図会』より

桜の花咲く、
みんなの公園。
歴史ロマンに出会える興正寺。
緑あふれる学園や街並み。
ぼくと一緒にまちの魅力を
探してみよう！

昭和区のマスコット ショウちゃん

まちあるきコラム

南山学園の歴史を知って、建物を見てみよう。

B 南山アーカイブズ（ライネルス館）、講堂、ピオ十一世館

南山アーカイブズは、南山学園の史資料の収集・保存・展示などをしている施設で、一般公開しています。この建物は、昭和7年(1932)に旧制南山中学が開学する際の校舎として建てられました。創設者（校長）にちなみ、ライネルス館と名付けられています。外観は、黄土色のテラゾーで仕上げられ、玄関ポーチの円柱や屋上の手すり壁にある三角切込みなど特徴的なデザインとなっています。展示室には、当時の制服や生徒手帳など、さまざまな刊行物が展示されており、南山学園の歴史を知ることができます。また、スタンプラリーもあり、楽しみながら見学ができます。なお、名古屋市都市景観重要建築物の指定（平成8年）を受け、国の「登録有形文化財」にも登録（平成10年）されています。

写真上下とも
南山アーカイブズ（ライネルス館）

近くにある講堂（昭和26年設立）やピオ十一世館（昭和28年設立）も、設立年代こそ違いますが、黄土色のシックな造りになっており、一体感ある景観を醸し出しています。

講堂・ピオ十一世館とも、名古屋市都市景観重要建築物の指定を受けています。（両施設は内部非公開）

写真上:講堂、下:ピオ十一世館

※ピオ十一世館は、神言会の修道院として建築されましたが、現在は南山学園の本部として利用されています。

昭和区に伝わる昔話

だいたぼっち

昭和区には、いくつかの昔話や伝説が今も伝えられています。
どこかユーモラスだったり、ちょっと心がほっこりしたり。
そんな、人々の暮らしに根ざした昔話を紹介します。

昔、尾張の国に子供のいない百姓夫婦が住んでいました。ある日、畑仕事をしていると、急に空が真っ暗になり、大粒の雨が降り出しました。あわてて木の下に逃げ込むと、雷が落ちる音がして、「痛いよぉ」という声がしました。何と、雷の子が泣いています。

「こらっ」と鍬を振り上げると、「何でも願いをかなえるので助けて！」と言います。そこで、夫婦は「子供を授けてほしい」と言いました。

ほどなくして、夫婦に元気な男の子が生まれました。二人は大喜びして、雷の子に言われたとおり、くすの木の桶を作り、笹の葉を二枚入れて、湯浴みをさせました。すると、男の子はグゲッと大きくなりました。夫婦は早く大きくしたくて一日に何回も湯浴みをさせると、男の子はものすごく大きい、力持ちに育ちました。村人たちも「ぼっち」と呼んでかわいがっていました。

ある年のこと、大きな岩が川をふさいで、作物が穫れなくなりました。「あの岩が動けば…」という村人の嘆きを聞き、ぼっちはその場所へ行き、岩をグイッと押しました。すると、岩はゴロゴロと転がり、川はもとの流れを取り戻しました。田畑は水で潤い、村人たちはとても感謝しました。

やがて夫婦は「お嫁さんを」と願い、お湯に笹の葉をたっぷり入れて、一日に何度も湯浴みをさせました。男の子は天にも届くほどの大男に成長し、「だいたぼっち」と呼ばれるようになりました。ところが、だいたぼっちが歩くと大地が揺れ、走ると風が巻き起こります。村は大騒ぎになり、だいたぼっちは村にはいられなくなりました。

だいたぼっちがいなくなると、鬼が食べ物を奪ったり、若い娘をさらっていくようになりました。村人はだいたぼっちのいる伊吹山へ出かけて、鬼退治を頼みました。だいたぼっちは喜んで村へ行き、鬼をひねりつぶしました。

ある日、だいたぼっちが伊吹山で昼寝をしていると、何やら騒がしい声がします。

「また何か起こったのかな」と思って見てみると、駿河の国の方で大地から火が噴き出しています。だいたぼっちはさっと立ちあがると、近江の国の土を両手ですくい、もっこに入れて駆け出しました。その土を大地にかけると戻って土をすくってまた駆け出します。火の粉が舞い、熱風が吹き荒れるなかを何度も往復して、とうとう火を鎮めたのです。

こうしてできた山が富士山です。てっぺんから白い煙が出ています。近江の国の土をすくい取った跡に琵琶湖ができました。途中つまずいて手をついたところが浜名湖で、もっこからこぼれた土が固まったのが小牧山です。そして、だいたぼっちの足跡が八事の「まんとう池」になったそうです。

参考文献：東海の民話など

八事の蝶々

八事に古くから伝わる郷土玩具です。明治維新後、帰農した尾張藩の士族たちが農閑期の仕事として作り、行楽客に売ったのが始まりです。興正寺の門前や八事にあった遊園地に並べると、大勢の人が「八事のお土産」として買っていったそうです。材料は竹ヒゴ・キビガラ・和紙で、形や羽の模様は、作る地域や家によって異なっていました。大きさも半紙半分ぐらいから2～3畳ぐらいのものまであったようです。

現在は、天白区の故・加藤かなさんが伝統を守ってきた蝶々が、保存会によって受け継がれています。

ショウちゃんとめぐる ぶらり昭和区MAP ～八事・興正寺～

製作：「ぶらり昭和区MAP」製作委員会
桜花学園高等学校インターアクトクラブ
昭和区案内人クラブ
昭和鯱城会
八事・杁中歴史研究会
協賛：名古屋昭和ロータリークラブ

昭和区まち歩きアプリ「Show MAP」
ダウンロードはこちらから
https://nkc-showmap.com/
アプリ制作:名古屋工学院専門学校

発行：名古屋市昭和区役所
TEL 052-735-3822　FAX 052-735-3829
2021.3　13,000部

A 八事山 興正寺

境内は広大で、都会にありながら常緑広葉樹の森が広がり自然が残されています。
市民が参加できる行事が四季を通じて行われ、最大のものは10月初旬の千燈供養会です。
縁日のうち、毎月5日・13日・21日（21日はマルシェ）は露店が出店し、多くの人でにぎわいます。

a 五重塔

文化5年（1808）に建立され、興正寺のシンボル的な存在です。高さは26mあり、国指定の重要文化財では愛知県下唯一の木造五重塔です。塔そのものを本尊に見たて、中央の心柱に大日如来を配し、四天柱間には仏壇を設けて四面に金剛界四仏を配しています。もとは釈迦の遺骨を奉安するためのストゥーパという仏塔が五重塔の原型と言われています。

b 観音堂

元禄9年（1696）尾張徳川家二代藩主光友の寄進した念持仏「正観世音像」を本尊に観音堂が設けられ「普門院」とも称し、西山境内の本堂と位置付けられました。脇立の三十三観音は天瑞圓照和尚の作です。安政4年（1857）に移築され、石段を設けた現在の姿になりました。

c 西山本堂

寛保2年（1742）、阿弥陀堂（現西山本堂）を建立するが大破し、寛延2年（1749）再建にとりかかり寛延4年（1751）落成しました。建物は八間四方の寄棟造、本瓦葺で、一間の向拝がつきます。本尊は阿弥陀如来、向かって右に弘法大師、左に大隨求明王のほかなごや七福神の寿老人、おびんずるさまなどが祀られています。尾張徳川家七代藩主宗春はここで諦忍和尚から念仏の教えを受けました。

d 阿伽井

別名「姿見の阿伽井戸」。「阿伽（あか）」とは仏様に供えるきれいな水で、「井（いど）」は「井」の本字です。人間の寿命を計る不思議な井戸と言い伝えられ、井戸底の水面に自分の姿を映して、その姿がはっきりと見えれば元気であるとされています。興正寺七不思議のひとつとして大切にされ、昔も今も参詣者は長寿を願ってこの井戸を覗きます。

e 普照殿

平成20年春建立され、尾張徳川家七代藩主宗春自筆の「八事山」号を仕立てた扁額が正面に掲げられています。以前は西山本堂に掲げられていました。普賢菩薩、観音菩薩、勢至菩薩像が安置されています。

f 普門園・竹翠亭

普門園は、回廊に囲まれた庭園、住職の執務室、客間であった赤瓦葺の建物「耕雲亭」、茶室「竹翠亭」などで構成されています。竹翠亭はかつて岐阜にあり、同市指定の重要建築物でした。大正時代の海運王と呼ばれた日下部久太郎の邸宅で平成20年に移築されました。

■普門園拝観
10:00～16:00
（最終入館15:30）
■不定休、予約制
■拝観料 500円
（竹翠亭での抹茶と季節の和菓子付き）

本堂の勤行

「縁結びの樹」として信仰を集めるクロガネモチの木

観音堂

千燈供養会

参拝のあと、買い物で賑わうマルシェ

g 能満堂

享保2年（1717）尾張徳川家六代藩主継友の寄進によって建立されました。以後、徳川家の祈願修法所として大切に扱われ、本尊の虚空蔵菩薩（秘仏）は開山天瑞圓照和尚が自ら刻んだものです。

h 大日堂と大日如来

八事山内で最も高い所にあり、かつては呑海峰と呼ばれました。熱田の杜や港が一望できたと言われています。元禄10年(1697)尾張徳川家二代藩主光友が衆生救済と生母の供養のために鋳造・寄進した銅製の胎蔵界大日如来が総本尊として安置されています。大日如来は、高さ3.3mあり、名古屋市三大仏の一つで市指定有形文化財です。

i 弘法堂

開山天瑞圓照和尚の百回忌（1818年）を機に建立されました。正面中央に真言宗の高祖弘法大師を祀り、それ故、別名を大師堂とも呼ばれます。右側に開山天瑞圓照和尚、左側に真言律宗西大寺中興の興正菩薩叡尊の三祖が祀られています。毎月21日の縁日には10時半～12時頃まで開扉され、堂内に入ってお参りすることができます。

j 奥之院（東山本堂・不動護摩堂）

興正寺発祥の地です。東山本堂は、創建時に建立された最も古い堂宇の一つで、東西二山のうち、女人禁制で学問・修行の場であった東山の本堂です。本尊は恵心僧都作と伝わる阿弥陀如来です。尾張徳川家藩主と歴代先師の位牌が祀られています。不動護摩堂では、護摩祈祷を行なっており、不動明王と、毘沙門天をお祀りしています。

k 東山門と蛇腹道

東山の入口にある東山門は黒門とも呼ばれています。名古屋城にあった出丸門を移築したという説もあり、門の両側にある格子は攻めてくる敵軍に弓や鉄砲で対抗するためのもので、門に続く S 字の蛇腹道は、攻めあがれないように作られたのではないかという説もあります。

飯田街道との間には一間（180cm）の堀をめぐらせてありましたが、今は埋め立てられて国道153号線の一部になっています。